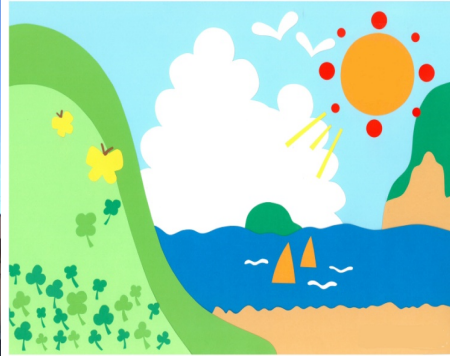


逗子市療育推進事業検討会 名簿

2020年（令和2年）3月現在

	所 属	氏名
1	公募市民	友野 京子
2		山本 啓一
3		柳下 枝里
4	逗子市手をつなぐ育成会	中野 由美子
5	逗子市自立支援会議	(福)湘南の風支援センター風 施設長 菊池 一美
6	逗葉私立幼稚園協会	聖マリア幼稚園 園長 森 荘一
7	逗子市保育施設連絡協議会	沼間愛児園 園長 小沢 悦子
8	神奈川県鎌倉三浦地域児童相談所	子ども支援課長 高木 聡
9	神奈川県鎌倉保健福祉事務所	保健福祉課長 猿田 貴美子
10	逗子市福祉部障がい福祉課	雲林 隆継
11	逗子市教育部学校教育課	杵山 英廷
12	逗子市教育部子育て支援課	中村 妙子
13	アドバイザー 横浜市総合リハビリテーションセンター	小川 淳

逗子市こども発達支援センター



ひなた・くろーばー

1

こども発達支援センターの概要

2

こども発達支援センターひなたの概要

施設概要

所在地	逗子市桜山5丁目20番29号 療育教育総合センター内
対象エリア	逗子市
利用対象	0歳～18歳までの障がいのある子どもや発達に心配があり支援を必要としている子ども及びその家族

施設の内容（療育教育総合センター）

3階	教育研究相談センター：相談室、適応指導教室、研修室、事務室ほか
2階	くろーばー：相談室（2室）、プレイルーム（3室）、こどもトイレ、事務室ほか
1階	ひなた：相談室（4+2室）、待合室、PT・OT室、聴覚検査室、プレイルーム（2室）、事務室、会議室 ほか

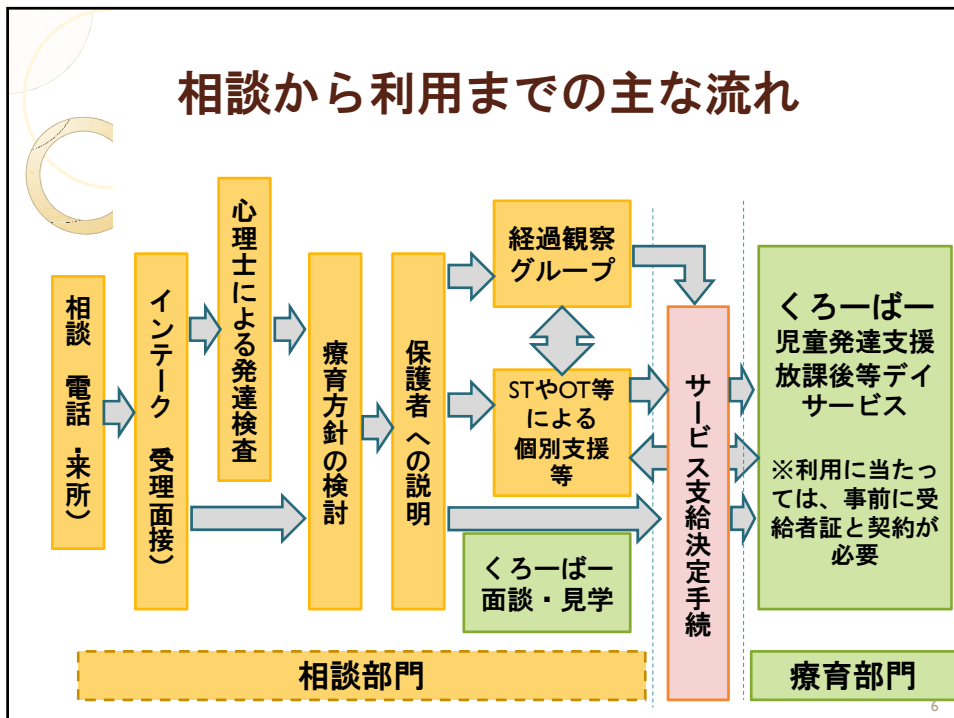
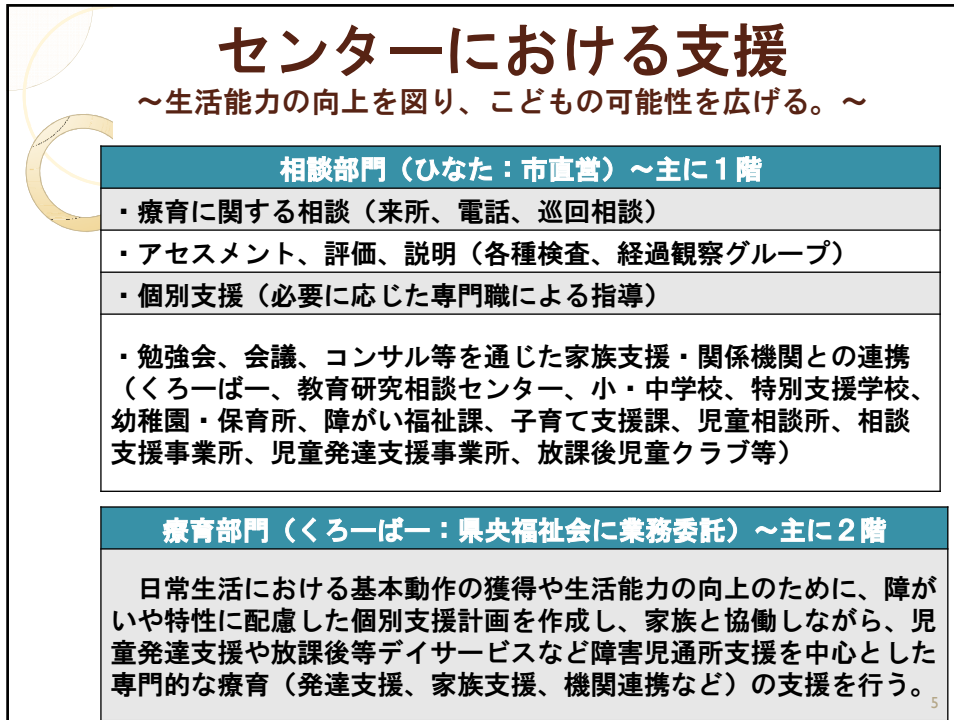
職員配置（○内数字は人数）

相談部門（ひなた）

- 市直営
- 療育相談員②
- 学齢期相談担当①
- 心理士③
- 言語聴覚士④
- 理学療法士①
- 作業療法士③
- 保健師①
- 保育士②
- 嘱託医③
(児童精神科医、リハ科医)
- 事務職員③

療育部門（くろーばー）

- 県央福祉会に業務委託
- 管理者①
(児童発達支援管理責任者兼務)
- 保育士④
- 児童指導員⑦
- 指導員（きょうだい児担当）①
- 看護師①
- 事務員①
- 運転手②



令和元年度の実績

7

令和元年度利用児童数

(令和2年2月29日現在)

- 新規利用児童数

	28年度	29年度	30年度	R元年度
未就学	69	64	67	64
学齢	41	28	38	32
合計	110	92	105	96

- 継続利用児童数（新規も合わせて）

	28年度	29年度	30年度	R元年度
未就学	145	170	197	194
学齢	45	132	214	329
合計	190	302	411	523

※新規利用数については例年100名前後で推移しており、それに合わせて継続利用数も年々増加しております。終結の扱いは、18歳以上になった方及び転出ケースとしております。

8

年齢別実人数 (令和2年2月29日現在)

年齢	実人数	年齢	実人数
0歳	4	10歳	43
1歳	13	11歳	25
2歳	29	12歳	17
3歳	31	13歳	9
4歳	48	14歳	6
5歳	69	15歳	8
6歳	58	16歳	3
7歳	67	17歳	6
8歳	47	18歳	2
9歳	38	合計	523

※未就学児は、2歳児の相談件数の増加が見られ、主訴としましては、就園にあたっての心配が多く聞かれました。学齢児においては、初めて18歳を迎えるケースがあり、引継ぎ等含め今後のかかわりについて検討しました。

職種別相談件数 (令和2年2月29日現在)

	相談員	心理士	言語 聴覚士	理学 療法士	作業 療法士	保育士	保健師	合計
0歳	60	3	9	16	1	1	0	90
1歳	122	17	32	44	2	16	13	246
2歳	527	188	20	20	1	233	87	1,076
年少	418	119	29	29	12	101	30	738
年中	383	121	89	27	55	99	33	807
年長	525	182	423	3	83	98	24	1,338
小・低学年	330	176	121	0	42	1	2	672
小・中学年	128	56	58	0	24	0	0	266
小・高学年	113	61	84	0	7	0	1	266
中学生	157	56	98	11	19	0	2	343
義務教育終了後	40	3	48	2	2	0	0	95
計	2,803	982	1,011	152	248	549	192	5,937

※言語聴覚士、作業療法士の相談件数の増加が見られます。理由としましては、評価・個別指導の件数が増えていることが挙げられますが、専門職の人員は変わらないため、ケース対応の方法は今後の課題でもあります。

巡回相談件数（1）

（R元年度は令和2年2月29日現在：実人数で計算している。）

		支援を行った人数		相談につながった人数		支援者支援を行った人数		巡回回数	
		H30年度	R元年度	H30年度	R元年度	H30年度	R元年度	H30年度	R元年度
1	かぐのみ幼稚園	28	23	1	1	27	22	3	3
2	第二逗子幼稚園	0	0	0	0	0	0	0	0
3	聖和学院幼稚園	0	0	0	0	0	0	0	0
4	聖マリア幼稚園	7	5	1	1	6	4	3	3
5	逗子幼稚園	0	0	0	0	0	0	0	0
6	湘南保育園	16	16	1	4	15	12	3	3
7	小坪保育園	17	20	2	2	15	18	3	3
8	双葉保育園	16	11	0	0	16	11	3	3
9	沼間愛児園	10	14	3	4	7	10	3	3
10	桜山保育園	7	8	0	2	7	6	2	2

11

巡回相談件数（2）

（R元年度は令和2年2月29日現在：実人数で計算している。）

		支援を行った人数		相談につながった人数		支援者支援を行った人数		巡回回数	
		H30年度	R元年度	H30年度	R元年度	H30年度	R元年度	H30年度	R元年度
11	湘南アイルド逗子保育園	1	6	1	0	0	6	2	2
12	逗子なないろ保育園	11	5	0	2	11	3	3	3
13	ごかんのいえ	4	3	0	0	4	3	1	3
14	しらかば逗子乳児保育園	0	0	0	0	0	0	0	0
15	第2あにえるち保育園	-	2	-	0	-	2	-	1
16	あにえるち保育室	2	0	0	0	2	0	2	0
17	ごかんのもり	7	11	1	0	6	11	3	3
18	YBS逗子	-	8	-	0	-	8	-	3
19	ココカラデザイン保育園 山本メディカルひでまり園	-	2	-	0	-	2	-	1
	合計	126	134	10	16	116	118	31	36

※巡回相談の主訴としては、「一斉の活動に参加できない」「落ち着きがない」「友だちとのかかわりの難しさ」といったものが多く挙がり、集団生活を送る上での支援の方法を支援者と共に考え、継続して見えています。

12

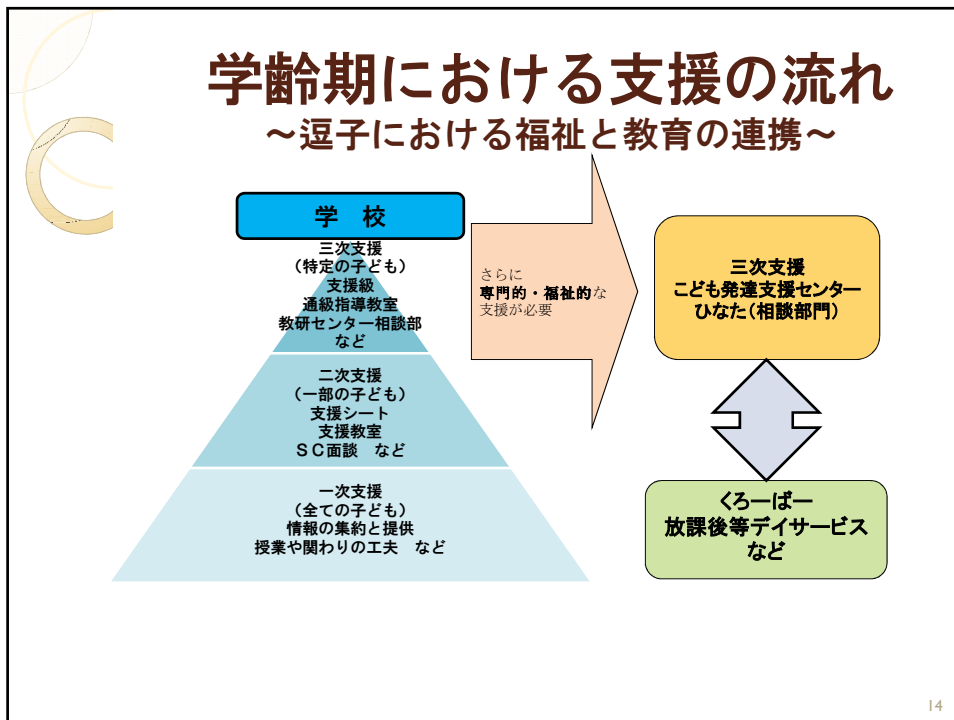
新規利用者の紹介ルート

令和2年2月29日現在

	子育て支援課の健診からのケース			子育て支援課	障がい福祉課	教育研究相談センター	学校	幼保 (巡回含む)	HP	知人	その他	合計
	4月健診	1歳6か月健診	3歳健診									
4月	0	1	0	1	0	1	0	1	2	1	1	8
5月	0	0	0	1	1	1	0	1	4	1	0	9
6月	0	0	0	2	0	0	0	3	3	0	0	8
7月	0	0	1	2	0	1	0	6	3	2	3	18
8月	0	0	0	2	1	0	2	3	1	0	0	9
9月	0	0	0	3	0	2	2	0	0	0	2	9
10月	0	0	0	3	0	0	0	2	0	0	1	6
11月	0	1	0	0	0	0	1	4	3	2	2	13
12月	0	1	1	0	0	0	2	0	2	1	0	7
1月	0	1	0	0	0	0	3	0	1	0	0	5
2月	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	1	4
3月												
合計	0	4	2	14	4	6	10	20	19	7	10	96

※その他(こども医療センター、さくらやま小児科クリニック、他市療育センター、児童発達センター、幼少期療育利用者等)

※昨年度に比べて、学校や幼稚園、保育園からつながるケースが多くなっております。巡回や情報連携を通してセンターが周知されてきたことや、より連携が取れるようになったことが考えられます。



学校との連携 (令和2年2月29日現在)

		巡回相談		支援シート 作成会議	コンサル セッション	引継ぎ会議	ケース会議
		(回)	(件)	(件)	(件)	(回)	(回)
1	逗子小学校	3	14	12	20	1	2
2	沼間小学校	1	2	0	2	0	0
3	久木小学校	1	2	0	16	1	2
4	小坪小学校	1	4	0	3	1	0
5	池子小学校	2	3	0	3	1	0
6	しおさい	0	0	0	0	2	0
7	やまびこ	0	0	0	0	2	0
8	逗子中学校	1	3	0	2	0	1
9	久木中学校	4	6	0	3	0	0
10	沼間中学校	1	4	0	1	0	0
11	鎌倉養護学校	0	0	0	0	0	1
12	武山養護学校	0	0	0	4	0	1
13	平塚ろう学校	0	0	0	2	0	0
14	湘南学園	1	1	0	0	0	0
	合計	15	39	12	56	8	7

※巡回は、ケース巡回と、平成30年度より実施している市内公立小・中学校への定期巡回を含む。
 ※支援シートの作成については、支援シートの提出期日が決まっているため、期間内に連携を取った学校は1校のみとなっております。


15

障害種別実人数 (令和2年2月29日現在)

	身体障害手帳所持		療育手帳所持		身体障害手帳および療育手帳 両所持		身体障害手帳および療育手帳 未所持		合計
	未就学児	学齢児	未就学児	学齢児	未就学児	学齢児	未就学児	学齢児	
	身体障害および その可能性	3	1	3	0	2	3	9	
知的障害および その可能性	0	0	7	25	2	1	7	10	52
言語障害および その可能性	0	0	0	0	0	0	20	11	31
発達障害および その可能性	0	0	0	1	0	0	141	274	416
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	3	1	10	26	4	4	177	298	523


※新規ケースの障害種別についての傾向は、例年と大きな変化は見られませんが、難聴のお子さんの相談件数は増加傾向が見られます。

16




公開講座について

17



公開講座の開催

- ・ 日 時：令和元年10月31日（木）9:30～11:30
- ・ 参加者：16名
- ・ テーマ：地域でつくる子どもの笑顔
～ネット・ゲームとやめられない子どもたち～
- ・ 講 師：青山 久美 氏
(横浜市立大学附属市民総合医療センター
精神医療センター 児童精神科医)



18

講演内容及び当日の様子

○児童精神科・依存症の分野を専門とする医師の立場から
(当日資料より抜粋)

- ・最近の若者のネット事情は？
- ・悪いのはネット？それともゲーム？
- ・ゲーム障害とは？
- ・ゲーム障害の予防と治療

など



19

参加者からのご意見・ご感想 1

アンケートから（回収15名）
今回の講座の感想について

- | | |
|-----------------|-------|
| ①非常に有意義だった | ・・・12 |
| ②有意義だった | ・・・0 |
| ③ふつう（どちらともいえない） | ・・・0 |
| ④あまり意義を感じなかった | ・・・0 |
| ⑤無回答 | ・・・3 |

20



参加者からのご意見・ご感想 2

- ・ゲーム自体が悪い訳ではなく、その背景を考えて、一緒にどうしていきいか考える事が大切というのがとても印象に残りました。
- ・ゲームに限らず、子どもとどうかかわったら良いかを学ぶことができました。
- ・ゲームに限らず、親子の信頼関係の重要性を改めて感じました。
- ・「変わらない」のではなく、「変わらない理由がある」というお話に、ゲームに関わらず、自分事として「依存から抜けること」の難しさを実感しました。
- ・具体的なかわり方や、世界での動向（WHO）、どんな意識で関わるのが大切かや具体例等、たくさんを教えていただけ、大変参考になりました。
- ・動機づけ面接法は、自分のスキルとして磨いていきたいところ。

参加者アンケートから抜粋

21



ひなたファイルについて

22



ひなたワークショップ（2回）


第1回（ひなた主催）

- ・日時：令和元年6月24日（月）10:00～12:00
- ・参加者：4名
- ・内容：①福祉制度について
②スライド「ひなたファイルの使い方」
③グループワーク

第2回（くろーば主催）


- ・日時：令和2年1月23日（木）
- ・参加者：2名
- ・内容：①ひなたファイルについて
②講座「ひなたファイル活用の利点」
③情報交換

24



ペアレントプログラムについて

25



ペアレントプログラム

～全4回の連続講座～

- ・ 日 時：①令和元年10月24日（木）10:00～ 12:00
 ②令和元年11月28日（木）10:00～ 12:00
 ③令和元年12月12日（木）10:00～ 12:00
 ④令和2年1月30日（木）10:00～ 12:00
- ・ 申込者：18名
- ・ テーマ：こどもの育ちを支えるために
 ～0歳から6歳までの乳幼児の発達を知る～
- ・ 講 師：当センター専門職員

こども発達支援センター ペアレントプログラム

こどもの育ちを支えるために

こどもが育つための環境を整えることは、こどもが健康に育ち、将来の社会で活躍するための重要な役割を果たします。この講座では、こどもの発達の特徴や、親がどのようにサポートすればよいかについて、専門職員がわかりやすくお話しします。

日 時	講 題	講 師
10月24日（木）10:00～12:00	0歳から1歳までの発達の特徴とサポート	佐藤 美穂
11月28日（木）10:00～12:00	1歳から2歳までの発達の特徴とサポート	佐藤 美穂
12月12日（木）10:00～12:00	2歳から3歳までの発達の特徴とサポート	佐藤 美穂
1月30日（木）10:00～12:00	3歳から6歳までの発達の特徴とサポート	佐藤 美穂

※ 申込者：18名（定員）
 ※ 申込期間：令和元年10月15日～10月20日
 ※ 申込方法：当センター受付窓口にて
 ※ 申込費：無料
 ※ 申込先：こども発達支援センター（〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1）

お問い合わせ：03-5561-1111（受付時間：平日10:00～17:00）

26



ペアレントプログラム

- ① 「乳幼児の心の発達～ゆったり子育てのすすめ～」
 - ・ 講師：臨床発達心理士（久保山）
 - ・ 参加者：16名
 - ・ 内容：①講座
 - ②グループワーク
 - ③全体でのふりかえり

- ② 「ことばの育ちを支える土台作り」
 - ・ 講師：言語聴覚士（久保島）
 - ・ 参加者：15名
 - ・ 内容：①講座
 - ②グループワーク
 - ③全体でのふりかえり

27



ペアレントプログラム

- ③ 「気になる？乳幼児の運動発達」
 - ・ 講師：理学療法士（本吉）
 - 「体感してみよう！感覚と動作の関係」
 - ・ 講師：作業療法士（清水）
 - ・ 参加者：12名
 - ・ 内容：①講座（理学療法士）
 - ②講座・ワークショップ（作業療法士）

28



ペアレントプログラム

- ④ 「3回の講座を通して考える子どもの育ち」
 - ・ 講師：臨床発達心理士（岡部）
 - ・ 参加者：13名
 - ・ 内容：①講座
 - ②グループワーク
 - ③参加者1分スピーチ
 - ④全体でのふりかえり

29



参加者からのご意見・ご感想1

全4回終了後のアンケートから（回収13名）

今回の講座の感想について

- | | |
|-----------------|-------|
| ①非常に有意義だった | ・・・10 |
| ②有意義だった | ・・・2 |
| ③ふつう（どちらともいえない） | ・・・1 |
| ④あまり意義を感じなかった | ・・・0 |

30



参加者からのご意見・ご感想 2

- ・子育ては、正解は一つではないと思わされ、悩みつつも楽しんでいきたいと思いました。
- ・各回通して、先生が「定番の育ちはこうだけど、とは言え人それぞれ違いますよ。」と念押ししてくださっていたのが、印象的でした。
- ・大人目線だけでなく、子どもはどう感じているのか、どうしてこの行動をするのかを知れて、面白かったです。
- ・グループワークが良かった。
- ・皆様の子育ての話聞いたこと、とても参考になりました。
- ・運動発達の回は、とても興味深かったです。人間てすごいなと思いました。出来ること一つ一つに意味があるんだなと。
- ・年齢的には自分の子には小さかったですが、通じるところもあり良かったです。

参加者アンケートから抜粋

31



前年度の課題から

☆検討していただいたこと☆

- ・ ひなたファイルについて
- ・ 未就学児巡回相談について
- ・ 学齢期

☆今年度の取り組み☆

- ・ 別紙資料にて

32

○ひなたファイルについて

H30年度：課題・今後	H30年度：検討会での意見	R元年度：取り組み	R元年度：結果・今後
<p>課題（一）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勉強会の皆勤者がいる一方で、活用事例がまだ少ない（270部配布）。 ・公開講座、その他の勉強会を含め、センターとしての家族支援も充実する必要がある。 <p style="text-align: center;">↓</p> <p>今後（工夫・手立て）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談やSTで配布、活用する取り組みを継続。 ・家族支援プログラムとして実施する。 ・勉強会の周知方法。 ・勉強会を継続する一方で、幼保小連携推進連絡調整会議等での周知も必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あくまでも「ひなたファイル」はツール。「保護者が自分の子どものことを説明できる」が意味、目的。 ・取り組むためのモチベーションが必要。 ・ファイルは、「使う人がどう活用するか」が課題。 ・記録をつけておくというのは大事なこと。（児が大人になってからより感じる。） ・学校やヘルパーさんから「ひなたファイル」の提示を求めてもらう。 ・相談支援事業所で計画を作成する際に利用する。 ・周りの人も見たがっている、見てもらえるという環境作り。 ・おしゃべりで終わったとしても、月1で「ファイルを書こう」というような集まりをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族支援としてのペアレントプログラム（連続講座・全4回）実施。 ・ひなたワークショップ2回開催。 ・経過観察グループの保護者プログラムで、ひなたファイルの勉強会を実施。 ・巡回時、各園に配布、周知。（園からも面談等で「ひなたファイル」の活用を促してもらうよう伝えたが、実際に利用するかどうかは保護者の判断によるところが大きいため、あまり活用事例聞かれず。） 	<p>（結果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子どもの発達を知る」「自分の子どものことを知る」「どう伝えるか」等話し合ったり、記入したりしてきた。 ・園に持参し面談で活用したという事例も少し聞かれるようになってきた。 <p>（今後）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面談等でも個別に作成する時間を作る。 ・「ひなたファイル」をセンター利用者以外にも知ってもらうために、センターでの講座や勉強会の際にも周知、場合によっては配布をしていく。 ・月1の「ひなたファイルの会」の実施を検討。 <p>※本当の意味での活用はまだまだこれから。やっと「ひなたファイル」の存在がセンター利用者中心に周知されてきた段階。上記に挙げたような取り組みを増やしていく。</p>

○未就学児の巡回について

H30年度：課題・今後	H30年度：検討会での意見	R元年度：取り組み	R元年度：結果・今後
<ul style="list-style-type: none"> ・相談ケースに他市の児童が入ってくる。 ・他市の児童を含めての集団のため、支援の制限にジレンマがある。 ・STの巡回機会が少ない。(CW、心理士が主) ・巡回前後のセンター内カンファが十分に行えていない。 <p style="text-align: center;">↓</p> <p>今後（工夫・手立て）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内の児童対象という周知はさらにしていくが、支援者支援としての対応の検討。 ・定期巡回をする園に関しては、予め年間で巡回スタッフの割り振りをする。 ・巡回前後のセンター内のカンファの時間の確保。 	<ul style="list-style-type: none"> ・センターが市外の園に巡回に行くように他市町からも市内に巡回に来てもらえると良い。 ・相談につながった方が良くと思われるケースの保護者が、巡回に対しての意識が低い場合、アプローチの方法が課題。 ・初めは受け入れが難しい保護者も年月を重ねることで意識も変わるため、定期的に巡回に行くことは大切。 ・定期巡回であることで、園とセンターと一緒に子どもの成長を見守ることができる。 ・十分に時間をかけることが大切であり、就学前に気が付いてもらおうというようなアプローチは基本的にすべきではない。 ・支援者支援と個別支援は分けるべき。（個人情報取り扱いの問題もある。） 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期巡回、ケース巡回の継続。 ・相談票をもとに、センター内でのカンファレンスを実施することで、当日に専門職が行けなくても、見立てやフォロー体制を作ることで、柔軟に対応できるようにした。 	<p>(結果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期巡回が定着してきたことで、園との連携がより取りやすくなってきている。 ・巡回時の面談が増えており、保護者のニーズの高まりや、支援につながりやすくなっていることを感じる。 ・他市町の児童に関しては、支援者支援を行い、園からの保護者への働きかけ等、他市町とも連携をとれるよう後押しをしている。 <p>(今後)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援者との「子どもの育ちの見方」の共有ができるような勉強会の開催を検討。

○学校との連携について

H30 年度：課題・今後	H30 年度：検討会での意見	R 元年度：取り組み	R 元年度：結果・今後
<p>・個別の教育支援計画（支援シート）については、関係機関との連携による作成についての周知を行ってきたが、学校、教職員により温度差がある。</p> <p>・個別ケースのコンサルテーションが一部の学校以外はない。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>今後（工夫・手立て）</p> <p>・定期的な巡回相談の他、学校からの求めに応じ、ケースコンサルテーションやセンターを利用していない子どもについてもコンサルテーションを行っていく。</p> <p>・学校教育課、障がい福祉課との連携による、関係機関参加による支援シート作成について、仕組みづくりを行い、教育相談コーディネーター担当者会や特別支援学級担当者会等での</p>	<p>・支援シートと「ひなたファイル」の同時活用を促していく。</p> <p>・連携の推進のために、校長会議、教頭会議に出席し、情報共有をしていく。</p> <p>・学校の中での温度差をなくすために、各学校ごとに訪問する等、学校内の情報共有を深めていくことが大切。</p> <p>・自立支援会議に学校の先生にも出席してもらう。</p> <p>・相談支援事業所と学校の相互理解を進め、お互いに補完していく役割の位置づけをしていく。</p>	<p>・数回にわたって、コンサルテーションを継続するケースもあった。</p> <p>・保護者からの要請を受けて、学校へのコンサルテーションも増えた。</p> <p>・各学校のコーディネーターといろいろな会議で会う機会が増え、連携がスムーズに行えた。</p> <p>・様々な関係機関が集まる担当者会議において、支援シートの作成について話し合う場を多く持てた。</p> <p>・4、5月に担当者会議を行う場合には、支援シートの作成に関わるが多かった。</p>	<p>（結果）</p> <p>・センターに対する周知が進んできたことで、個別のコンサルテーション等、各学校共にケースが増えてきている。</p> <p>・センターと学校の連携が進んできたことで、継続的に支援を行えるようになった。</p> <p>・「家庭と教育と福祉のトライアングル」が少しずつ実現してきている。</p> <p>（今後）</p> <p>・支援シートの作成に関しては、関わるケースが増えてきているものの、引き続き周知していくことが必要である。反面、ひなたファイルの活用や、センターでの支援により、保護者の子どもの認識が深まってきたことで、センターが入らなくて</p>

【資料2】相談部門における課題説明資料

<p>周知を引き続き行う。 ・また、センター利用者の保護者に対しては関係機関参加による支援シート作成のメリットについて周知していく。</p>			<p>もシートの作成が行えている現状も見られる。</p>
--	--	--	------------------------------

逗子市こども発達支援センターくろーばー
令和2年度の事業について(平成31年4月～令和2年2月)
児童発達支援事業・放課後等デイサービス事業
実施状況

児童発達支援事業

1. 事業所児童発達支援事業全体での利用者数(のべ人数)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数(通園・相談Gのみ)	18	20	20	22	13	19	22	20	18	19	20		211
定員	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15		165
利用のべ数	91	107	119	136	78	93	104	105	97	103	97		1,130
1日あたりの参加人数	5.1	5.4	6.0	6.2	6.0	4.9	4.7	5.3	5.4	5.4	4.9	#DIV/0!	
利用率 (一日当たりの参加人数/15)	34%	36%	40%	41%	40%	33%	32%	35%	36%	36%	33%	#DIV/0!	

2. 利用者の年齢及び性別状況(2月末現在)
通園療育

年齢	男性	女性	合計	構成比(%)
1歳児	0	0	0	0.0 %
2歳児	3	1	4	13.3 %
3歳児	5	6	11	36.7 %
4歳児	4	4	8	26.7 %
5歳児	5	2	7	23.3 %
合計	17	13	30	100.0 %

平均年齢	
男性	3.6 才
女性	3.5 才
全体	3.6 才

相談G療育

年齢	男性	女性	合計	構成比(%)
1歳児	0	0	0	0.0 %
2歳児	0	0	0	0.0 %
3歳児	0	0	0	0.0 %
4歳児	3	1	4	44.4 %
5歳児	3	2	5	55.6 %
合計	6	3	9	100.0 %

平均年齢	
男性	4.5 才
女性	4.7 才
全体	4.6 才

3. 巡回相談

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
訪問件数	0	0	2	1	3	2	2	2	1	2	1		16
対象児数	0	0	8	4	5	2	3	2	2	2	1		29

訪問先	幼稚園	聖マリア幼稚園 かぐのみ幼稚園 かまくら幼稚園 三笠幼稚園 あけのほし幼稚園 葉山明照幼稚園 鎌倉いずみ幼稚園 御国幼稚園
	保育園	湘南保育園 沼間愛児園 なないろ保育園 桜山保育園
	幼稚部	横須賀市立ろう学校

放課後等デイサービス事業

1. 放課後デイの利用者数(のべ人数)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	18	20	20	22	13	19	22	20	18	20	15		207
定員	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5		55
利用のべ数	40	59	59	58	30	52	64	53	49	62	52		578
1日あたりの参加人数	2.2	3.0	3.0	2.6	2.3	2.7	2.9	2.7	2.7	3.1	3.5	#DIV/0!	
利用率 (一日当たりの参加人数/5)	44%	59%	59%	53%	46%	55%	58%	54%	54%	62%	69%	#DIV/0!	

2. 利用者の年齢及び性別状況(放課後デイ)

年齢	男性	女性	計	構成比(%)
7歳	2	2	4	9.5 %
8歳	8	1	9	21.4 %
9歳	4	3	7	16.7 %
10歳	3	2	5	11.9 %
11歳	3	0	3	7.2 %
12歳	3	4	7	16.7 %
13歳	3	1	4	9.5 %
14歳	1	1	2	4.8 %
15歳	0	0	0	0.0 %
16歳	0	0	0	0.0 %
17歳	0	0	0	0.0 %
18歳	1	0	1	2.4 %
合計	28	14	42	100.0 %

平均年齢	
男性	10.1 才
女性	10.3 才
全体	10.3 才

共通項目

1. 重点課題テーマ および 報告

令和元年度は、30年度実施の事業所評価を通して得られた客観的な評価と、利用者の方からの意見に基づいて、現状のサービスの安定的な継続とさらに充実した療育事業の展開を目指していきました。令和元年度の重点項目は以下の3点です。

(1) 質の高い発達支援サービスの提供

- ・今年度より、日々の療育を充実するために、月に1度定期的にケース会議を行いました。方法としては、療育の専門性が高い法人内の職員をアドバイザーとして招き、全職員参加で行いました。
- ・発達支援の基本理解、および、療育の質の向上に関しては、法人内の療育に携わる職員等とともに、指導を受ける機会を作りました。また、自主研修を促すため、法人内、外部研修に参加できる機会を多く取り入れました。
- ・より良い療育活動を推進するために貢献した職員を、褒め合う機会をつくり、質の高い発達支援を目指しました。
- ・保育園利用児の保育園への送迎システムを次年度から行う準備を行い、だれもが療育を受けられる環境づくりを目指しました。

(2) 職場環境を快適に保ち、職員のモチベーションの低下を防止。

- ・上半期、下半期と定期的に職員面談を行い、職員の思いを受け止める環境づくりをしました。今後も、面談回数を多くし、職員の思いを丁寧に受け止め、職員の業務に対する能動的な仕事観の構築に対応していきます。
- ・職員の残業時間は、下半期から段階的減らしてきました。また、週1回ノー残業日を設けました。今後も、計画的に有給休暇をとれる環境づくりを大切にしていきたいと思います。

(3) 関係機関との連携、信頼関係の構築

- ・関係機関との連携に関しては、支援者向け研修会の開催、幼保小連携推進連絡調整会議等を通して、顔の見えるネットワークづくりを試みました。巡回相談では、保護者フォローと並行して、関係機関との連携づくりにねらうコミュニケーションをとってきました。特に、巡回相談は、幼稚園、保育園に関しては、年一回以上行い、保護者への報告も時間を充分とり、個別で行いました。

2. 活動報告

4月	5月	6月
2日(火)～3日(水) 新年度説明会 (通園・放デイ) 4日(木)～10日(水) 個別面談 11日(木) 前期開始 (通園・相談・放デイ)	27日(月) 就学説明会	10日(月) 通園家族懇談会① (にじ) 12日(水) 避難訓練 児発 17日(月) 通園家族懇談会② (ほし)
7月	8月	9月
6日(土) 運動まつり 19日(金) 支援者向け研修会		13日(金) 前期終了 17日(火)～20日(金) 個別面談 24日(火) 後期開始(通園)
10月	11月	12月
28(月)遠足	17(日) 市民向け研修会	23日(月) クリスマス会
1月	2月	3月
23日(木) ひなたファイル ワークショップ 27日(月) 市民向け研修会	10日(月) 通園家族懇談会 (にじ) 17日(月) 通園家族懇談会 (ほし)	

3. 行事報告

日時	行事	参加組数
4月2日(火)	新年度説明会(通園)	29名
4月3日(水)	新年度説明会(放デイ)	16名
6月10日(月)	家族懇談会①	7名
6月17日(月)	家族懇談会②	2名
7月6日(土)	運動まつり・父親懇親会	17名
7月19日(金)	市内支援者向け研修	13名
10月28日(月)	遠足	6組
11月17日(日)	市民向け研修会	38名
11月18日(月)	母親懇親会	8名
12月23日(月)	クリスマス会	15組
1月23日(木)	ひなたファイルワークショップ	2名
1月27日(月)	市民向け研修会	16名
2月10日(月)	家族懇談会①	5名
2月17日(月)	家族懇談会②	5名

4. くろーぱー主催研修会報告

日時	テーマ	
5月27日	就学説明会「小学校への入学に向けて」 講師:井手真佐子 氏	12名(スタッフ、講師を除く)
7月19日	「集団生活の中で役立つ保育・教育・療育とは」 講師:丹野節子 氏	13名(スタッフ、講師を除く)
11月17日	「発達障がいの理解」講師:吉澤宏次 氏	38名(スタッフ、講師を除く)
1月27日	「入学・入園・保護者ができること」 講師:和久井 葉子 氏	16名(スタッフ、講師を除く)

5. 防災訓練報告

6月12日(水)避難訓練(火災を想定して)	子ども2名 保護者1名 職員15名 その他0名 参加18名(センター全体訓練)
10月1日(火)避難訓練(地震を想定して)	子ども12名 保護者6名 職員15名 その他1名 参加34名
1月28日(火)避難訓練(地震を想定して)	子ども2名 職員4名 参加6名
2月6日(木)避難訓練(地震を想定して)	子ども8名 保護者1名 職員16名 参加25名
3月11日(火)避難訓練(地震を想定して)	子ども5名 保護者3名 その他1名 職員10名 15名参加(法人全体訓練)

6. その他

事業所評価を実施しました。

(実施月:2月 児発 配布総数35通 回答26通 回収率74%)
(実施月:2月 放デイ 配布総数34通 回答18通 回収率52%)

令和2年度に向けての展望

事業所開設5年目にあたり、大きなテーマとしては「療育の質的向上」と考えており、以下の3点を重点課題とし、努めてまいります。

(1) 質の高い発達支援サービスの提供

- ・利用者家族の思いや事業所としてのあり方について、職員全体で共有し、利用者本人や家族の視点に立った支援が行われるよう取り組んでいきます。
- ・子ども達が安心して支援が受けられるよう、療育室の環境整備につとめ、怪我や事故の防止を心がけます。また、職員ひとり一人の子ども達の安全に対する意識を高め、ヒヤリハットの徹底と分析を行います。
- ・「障がい特性」と「発達支援」の基本を理解し、お子さんの課題を考え解決できる職員の育成を心がけます。また、職員は自己の研修テーマを定め、それを達成するための法人内外のさまざまな研修の機会を保障します。

(2) 職場環境を快適に保ち、職員のモチベーションの低下を防止。

- ・管理者・現場職員との相互の報連相を大事にし、ガバナンスの構築を行います。
- また、管理職との個別面談を実施し、クラスごとの課題や職員間の問題等を洗い出し、解決に努めます。

(3) 関係機関との連携、信頼関係の構築

- ・逗子市との委託業務に関する内容を滞りなく計画・実施・報告をしながら協力関係を強化していきます。
- ・巡回先の保育園・幼稚園・小中学校に対し、事前に巡回の目的やねらいを明確にし、共通認識をした中で、巡回を行います。
- 巡回時も園の先生とのコミュニケーションを大事にしながら、双方にとって有益な取り組みになるよう努めます。

令和元年度逗子市療育推進事業検討会 意見記入用紙

○ 意見の提出方法 (次のうちいずれかの方法)

(1) 郵便 〒249-0005 逗子市桜山5-20-29 逗子市療育教育総合センター 宛て

(2) FAX 046-872-6052

(3) メール hinata@city.zushi.lg.jp

(4) 直接提出 逗子市療育教育総合センター (受付時間 8:30~17:15)

【ご意見記入欄】 (ご意見、ご質問等がございましたら、ご記入ください。)

足りなければ裏面へ⇒

所 属	
氏 名	

